

# 社会福祉法人日光会令和6年度事業計画

## <令和5年度を振り返って>

介護業界は、ここ数年人件費や諸物価の高騰による経費が増加する一方で、コロナの影響によるご利用者の利用控えや、感染防止の為の受け入れ制限等による収入減少が続き、極めて厳しい経営環境となっていた。令和5年度についてはコロナが5月より5類に移行したことでようやく改善して行くものと期待されたが、老健については超強化型への移行準備、体制整備等もあり前年より収入減少となった。

また、通所デイケアについても期待するような回復には至らず、むしろ前年よりさらに利用者が減少する結果となった。

令和2年2月にオープンした保育園については安定して園児が確保出来ており、子どもを預けて日光会で勤務を希望する職員の採用にも寄与している。

経費面では電気料金を始めとした諸物価が高騰しており、採用環境についても介護業界での勤務希望者の減少もあり非常に厳しくなっている。

将来の介護職員採用が困難になることを見据え、令和1年より技能実習生としてミャンマー女性を受け入れているが、平均的に能力も高く、ご利用者にもスムーズに受け入れていただけており、今後についても計画的に受け入れを進めて行くものとする。(現在実習生は7名)

## <令和6年度の課題>

令和6度についての大きな課題は、入所の稼働率の回復と超強化型への移行定着及びデイケアのご利用者の回復が急務となる。

特にデイケアについては日光会の収益の柱であり、利用者の増加しない原因の分析と体制を含めた抜本的な見直しを行うことで、少なくとも令和4年度水準にまで改善を図ることが喫緊の課題である。

保育園については定員に対し、ほぼ満額の収入が得られる状況になっているが、認可保育所における2人目からの子どもの無償化スタートにより、認可保育園へ移ることを希望する保護者が増加しており、入園希望園児を日頃よりしっかり管理し、園児の入れ替わりにスムーズに対応することで、今の状況を維持していくことが重要となる。

経費面では、適正な人員の見直し、職員の定着率を高めることによる人材紹介料の削減等、人件費の抑制に努めるとともに、常に業務に無駄が無いかきめ細かく見直しを行なって行くものとする。

常勤職員の比率が高く、パート職員の効率的な活用についても進めて行く

必要がある。

<ご利用者の満足度を高めるために>

令和5度はコロナが5類に移行したものの、まだまだ慎重な対応が必要だった状況のなかで、各種イベントの自粛や縮小、面会制限などでコロナ前と比べ大変ご不便をかける結果となった。

ご利用者の満足度の充実は常に意識しているところであるが、このような環境のなかでも工夫をかさねることで、より充実した生活を送っていただけるように努力を行ってきた。

なお、コロナについても行動制限の緩和に伴い、老健ご利用者と保育園児の交流などは行って来たが、令和6年度についてはさらに可能な範囲でコロナ前の状況に近づけて行きたい。

真心からのおもてなしを感じていただけるように、理念研修等を通じて職員の質の向上を図るべく力を注いでおり、職員よりの改善提案も積極的に採用し、ご利用者の過ごしやすい環境整備にも引き続き努力するものです。

<令和6年度収支予算計数>

収 入	590,000,000 円
費 用	568,400,000 円
サービス活動外収支	1,100,000 円
収支差額	20,500,000 円